原綿と合成繊維の融合製品で快適な環境づくりに貢献

澤田安弘さん
株式会社澤田棉行（めんこう） 代表取締役社長
（西兵庫信用金庫　高岡支店）

創業138年の歴史を持つ㈱澤田棉行（※1）は、近年、原綿と合成繊維をかけ合わせ、さまざまな機能性を持つ独自の製品開発で活路を開いてきた。代表取締役社長の澤田さんに、事業の現状と今後の展望について伺った。

機械、技術、原料すべてを自社で徹底管理

事業の概要を教えてください。

原綿・合成繊維などの原料販売と、それらをブレンド加工した独自の機能性製品の開発・製造販売を行っています。コンセプトは「水、空気、音の汚れを取り除く製品づくりを通して、快適な環境を築くこと」。空気浄化フィルター、綿栓（生物学・医学・農学などの分野で、生物や生物組織を培養する容器に使う栓）、水槽用フィルター、吸音材、介護用おむつ、難燃・不燃材料、嘔吐物処理剤などの製品を開発しており、付加価値の高い製品の開発に重点的に取り組んでいます。

原綿はどこから仕入れているのですか？

世界の三大綿産国はアメリカ、中国、インドで、現在、日本国内ではほとんど生産されていません。綿の質には各国それぞれの特色があり、敷布団に適した太くて短いデシ綿はインドから、掛布団に適したドレープ性のある綿はアメリカ、オーストラリアなどからと、用途に合わせた原綿を輸入しています。

製品メーカーとしての強みは、どういったところでしょうか？

本社工場で使用している不織布製造機は、独自に設計・製作したものですが、オリジナル性が高く、短期間で複数のラインによる量産が可能です。また、綿素材と合成繊維とのブレンド技術にも独自のノウハウを持っています。迅速かつ安定的に原料供給を行うことができるのも当社の強みです。

産学連携開発で地場産業発展に貢献

製品開発はどのように行っているのですか？

営業担当が持ち帰った課題やアイデアについて、現場の担当者と相談して製品化を検討します。取引先が困っておられることに対応するだけではなく、「この素材を使ってどんな新製品ができるか」を考える社員の積極性を尊重しており、製品開発などにも自由に取り組んでもらっています。また、状況によっては、原料メーカーや、産学共同開発など外部と連携し対応するよう努めています。

産学連携で開発した製品例を教えてください。

2003年に屋上緑化事業に取り組み、「屋上緑化用軽量わた基盤材」を兵庫県立大学と共同開発しました（04年、中播磨モノづくり大賞受賞）。また昨年、これまで目視で行っていた検品を、AI技術の活用により自動で行う装置を同大学と共同開発。コスト削減、製品の信頼性向上を実現しました。この装置の開発による地場産業発展への貢献が認められ、今年1月、「にししん地域振興財団（西兵庫信用金庫が設立）」より表彰していただきました。

経営理念について、お聞かせください。

長い歴史を持つ企業として、今後も事業を継続させることが第一義と考えています。そのためには、他社にできないことを実現しなければなりません。利益の追求だけでなく、「自分たちだからできる」というモノづくりを通して、社員にもメーカーとしての自信を持ってほしいと願っています。

■■■

138年の老舗の看板を守り続けて
～原綿卸売りから製品開発へと転進し成長～

同社の創業者は澤田藤吉さん。父親は造り酒屋を営んでいたが、事業が行き詰まったため、1880（明治13）年、「はりまや」の屋号で新たに原綿の卸売業を始めた。

「江戸時代に播磨国姫路藩家老・河合寸翁（すんのう）が木綿の専売で藩の財政を立て直して以降、姫路木綿は地域の特産品となっていました。日清・日露戦争、関東大震災などがあり、世情は不安定でしたが、創業者はいち早く機械化を図り、商いを軌道に乗せました」

しかし、二代目の庄一郎さんは病気で急逝。庄一郎さんの弟・春三さんは、まだ学生だった庄一郎さんの子・藤一郎さんとともに1939年、㈱澤田棉行として法人化。50年には寝具小売部門と原料卸部門を分割し、原料卸部門を春三さんが承継した。

その春三さんの子・宏一さん（四代目）、小坂雅宥さん（五代目）が承継した原料卸部門の流れをくむのが、現在の同社である。

「その後、繊維・紡績業の〝ガチャマン景気（※2）〟を背景に業績は向上しましたが、相場の影響を受ける原綿の卸売りだけでは将来に不安を感じ、現在地に本社を移転した頃（70年）から、各種フィルター、吸音・消音材の製造販売も開始。同時に、九州に製綿業者が多かったことから、九州支店を開設して寝具用原料の販売にも尽力しました」

そして76年、㈱澤田棉行は創業100周年記念事業の一環として、綿花の白をイメージした本社新社屋を完成させた。

▲ エアフィルターや油吸着材、および各種機能性不織布。

▲ 防音壁などに使われる吸音材、および各種不織布。

▲ 綿栓、ガス吸着用フィルター、芳香剤などの芯材に使用するファイバーロッド。

※1　「棉」は植物・原料としての綿を指す。㈱澤田棉行は原料商からスタートしたため、この漢字を社名に使用している。

※2　1950年の朝鮮戦争特需による、「ガチャンと織機を稼動すれば一万円儲かる」といわれた繊維業界の好景気。